

事務事業名		雲南市畜産経営緊急支援事業		所属部	農林振興部	所属課	農業畜産課	
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	畜産グループ	課長名	細木 浩之	
	施策名	〈34〉農業の振興		担当者名	荒木 太郎	電話番号	0854-40-1055 (内線) 2411	
	目的対象	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。				
	基本事業	〈097〉農業基盤の整備・保全		予算科目	会計 0:130 大事業名 0:1	畜産事業総務管理事業		
目的対象	担い手農家をはじめとする農家	意図	働きやすい環境で、農業の生産性が維持・向上する。				中事業 0:540 中事業名 0:15	畜産経営緊急支援事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市内畜産農家(肉用繁殖牛、肥育牛、乳用牛、養鶏)	新型コロナ感染症の影響、ウクライナ情勢、円安等により、家畜の配合飼料価格が過去最高値を記録し、畜産農家の経営を圧迫しており、生産基盤の維持・畜産経営の継続を図るため緊急的に支援する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R4 年度 ~ R5 年度)	経営コストに占める飼料費の割合が高く、飼料価格の高騰で畜産経営が大きく圧迫される中、生産基盤の維持と経営継続を図る畜産農家に対して配合飼料価格高騰分について緊急的に補助金を交付する。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) 対象となる農家の把握。 補助金の支払い。	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 令和4年度新規事業

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 繁殖和牛飼養頭数(2才以上)	頭			410	410
イ 肥育牛飼養頭数	頭			2,562	2,562
ウ 乳用牛飼養頭数(2才以上)	頭			318	318
エ 養鶏飼養羽数	羽			289,543	289,543

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)	② コストの推移	単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
事業費54,439千円 (内訳) 消耗品費 20千円 通信運搬費 20千円 補助金 54,399千円	財源内訳	千円			43,181	23,900
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円			11,258	61
	事業費計	千円	0	0	54,439	23,961

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	過去に類を見ない飼料価格の高騰により、畜産農家の経営が圧迫されていることに対し、県の支援と同調して市においても支援を行った。生産基盤の維持・畜産経営の継続を図るため、この補助金を活用してもらい、激変緩和の対策として経営継続・経営改善に結びついている。
② 事業実施するうえでの課題	今回の補助金は、あくまでも緊急的な対策であり、根本的な経営改善のための支援となっていないので、国における輸入飼料の価格安定対策、自給飼料の安定的生産基盤の確立など、1自治体だけでは解決が難しい課題となっている。
③ 課題解決に向けた改革改善等	国における輸入飼料価格安定対策が行われており、また各農家においても経営改善に取り組み始めている。加えて生産物の販売価格も徐々に改善される傾向にあるが、飼料価格の高止まり、生産物への価格転嫁が進む見込みが経たない状況であり、引き続き国・県への要望を行い、市においても国・県の動向を見ながら必要に応じて支援の検討を行う。